

奥順株式会社

旧式の図案設計ソフトを新しくすることで、
時代のニーズに対応したデザインや表現を実現、
新規顧客の獲得を目指す



本場結城紬染織資料館「手織里」。結城紬の反物や仮絵羽が展示されている

取り組みの経緯

1907年の創業以来、結城紬産地卸問屋として商品を企画製造してきた。しかし、近年の着物離れに加え、多様化する顧客ニーズに対する図案設計に、旧式のシステムを使っているため、提案の幅が狭いのが現状であった。

反物製作はまず図案を設計する。その際、MS-DOSの結城紬専用絣図案設計ソフト（通称タフコン）を使用していた。しかし、MS-DOSはWindowsが登場した20年ほど前に役割を終えていて、対応するモニターやプリンターなどの周辺機器はなんとか中古を探してしのいでいた。モニターは小さく、デザイン全体のバランスを大画面で確認することが困難だった。何より問題だったのは、フロッピーに保存していたデータが、劣化のため消え始めていたことだった。

糸の段階で柄を作るための図案を作成するタフコンは、特殊方眼紙の目に沿って点が配列されている状態なので、図案の段階で着姿をイメージすることは難しい。そのため、デザインソフトで色柄の雰囲気や全体のイメージを確認し、依頼主へのプレゼン

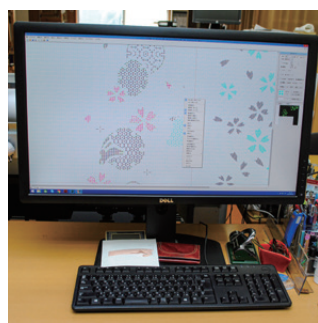
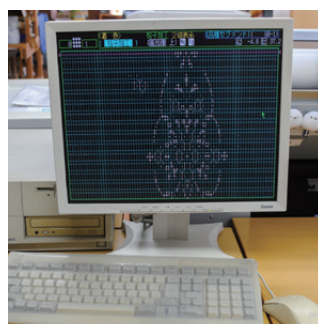
も行っている。ところが、タフコンとデザインソフトに互換性がなく、操作が連動していないので、作業効率が非常に悪かった。

事業の具体的な内容及び効果

本補助事業で導入した結城紬図案設計システム「タフコンWindows版」は、ソフトウェア会社と打ち合わせを重ね、今の市場の要望に合わせて開発を行った。

Windowsに対応した新しいタフコンはデザインソフトと連動しているため、イメージデザイン作成、絣入力、配色編集、仕立てシミュレーションが同じパソコンで行えるようになった。仕立上りのイメージから、絣入力の修正もできるため、よりリアルに絣の図案を考えられるようになり、作業時間の短縮にも大きく貢献した。

これまでは別のパソコンで作成した原図をスキャンし、線で枠取りをして絣入力していたが、新タフコンは、原図から線の枠取りなしで絣入力ができるようになった。また、柄の一部分しか画面で表示できなかったが、柄全体を画面表示できるため、格段に効



MS-DOSのタフコン画面(写真上)と、Windows版タフコン画面

奥順株式会社

〒307-0001 結城市結城12-2
TEL.0296-33-3111 FAX.0296-33-3116
http://www.okujun.co.jp
資本金：6,000万円
従業員数：58名

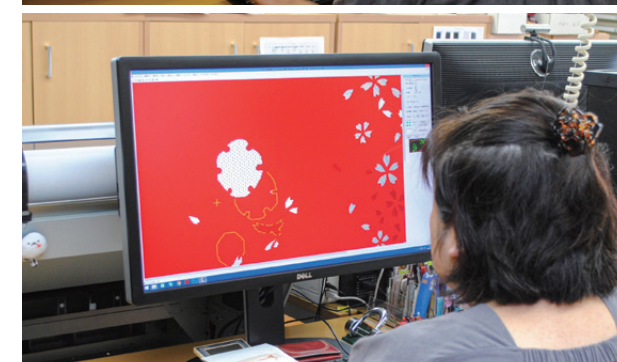
結城紬の企画とデザイン及び販売流通を請け負う製造問屋として、産地の発展に寄与。本場結城紬染織資料館を敷地内に持ち、店舗や見世蔵、土蔵などは国の有形文化財に登録されている。

事業概要

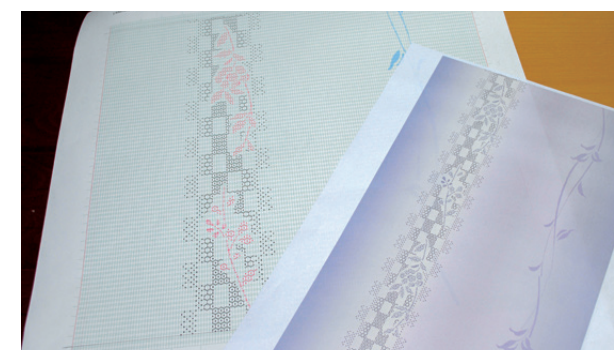
結城紬版専用ソフトを購入し、顧客ニーズを捉えた絣図案の提案ができるよう、絣図案入力システムの開発を行った。多様化する顧客ニーズに即応するべく、文様の表現力を格段に向上させることができた。

率が上がった。ソフトの操作自体も容易になったため、操作技術の習得期間も短くなったという。

ソフトウェアと同時に専用プリンターやスキャナーも導入。古いプリンターでは印刷出力に時間がかかる上、2枚に書き出してつなぎ合わせていたが、最新プリンターでは出力時間が短縮、1枚の紙でプリントできるようになった。



色をつけたり変更したりも簡単な操作で行える



出力した用紙。大きいサイズで図面もわかりやすい

事業成果の活用・今後の取り組み

長い歴史を持つ結城紬だが、やはり時代によって流行がある。以前は総柄が主流だったが、最近は空間を生かした飛び柄が好まれ、色も明るめの傾向だという。また、これまで一尺の模様をリピートしていたものが、二尺でひとつの流れを求められることも増えてきた。このように、市場のニーズに合わせた図案を提案し、実現させることが重要となっており、新しいソフト導入により文様の表現力を向上させることで、結城紬の新規顧客獲得及び需要拡大を実現することが可能になった。50～60代の既存顧客だけでなく、新たなソフト開発で、絣の表現力が向上し、新規顧客である30～40代向け商品の開発にも取り組みたい考えだ。



奥澤 順之さん
奥順株式会社
代表取締役専務

「日本古来の手作りの良さを持つ、国の重要無形文化財指定の『結城紬』。世界最高の絹織物として後世に伝承し、創る人々と着る人々の間に立ち、真の美を求め、そこに関わる全ての人の幸せを願い、誇りを持って歩んでいく企業です」